

日本精神保健看護学会 第17回学術集会

「いま、改めて精神看護を考える」

に参加して

岩手県立大学大学院看護学研究科 田 中 有 紀

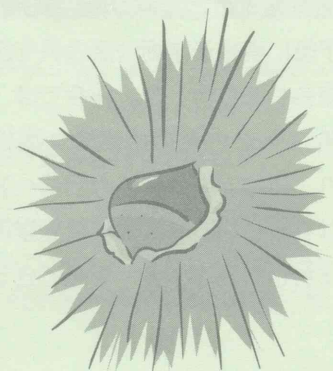
岩手で生活するようになり、早1年半が経ちました。以前の私には、学会は敷居が高いものでしたが、一度参加すると不思議なもので、今ではすっかり元気をもらいに足を運んでいます。最近は、これまで以上に学会で出会う方々をはじめ、沢山の方々に支えられて今日まできたなと日々感じています。

そんな中、初めての土地で患者さんの退院支援に関わり勤務しながら「支えられること、支えること」の意味深さに、私は立ち止まったりしながら、改めて関心を寄せています。池田先生の基調講演は、そういった点でも原点に戻り考えさせられたのと同時に、背中を後押ししてくださる講演でした。自分以外の人の「思い」や人生の一部を支え、携わっていくことの難しさ。今、患者さんと今後の生活（時には人生観）の質を考えていくとき、より本人が良いと思えることは何だろうか？ 私たちは、間違った方向で支援してないだろうか？ 押し付けてはないだろうか？ とスタッフの葛藤・・・精神科という枠を離れ、本当に広い視野で考え、アプローチが必要だと感じました。

また、発表された方々の研究は立ち止まり、葛藤しているのは自分たちだけではないこと、ひとつひとつの研究に

今後のヒントが隠されているのだと励まされています。

現在、病院と学業との両立をしながら初めて感じたことがあります。これまで、病院の中での研究は、ただただ重荷の一言で、研究とは別世界の事でした。しかし、最終的には患者さんに返っていくもので、今後、研究が常に身近なものとして感じられるように恩返しのできたらばと感じました。拙い文章を書きつつ、エネルギー充電のために次の学会を楽しみに待ちたいと思います。



日本看護系学会協議会

(Japan Society of Nursing Science) について

自治医科大学看護学部 副理事長 永井優子

今年度の総会で報告されましたが、日本精神看護学会は昨年度の理事会で日本看護系学会協議会（以後、協議会と略す）の入会を決定し、私が担当になりました。協議会は、看護学の学術的発展のためには関わる研究者全体としての組織的充実が不可欠であることから、日本学術会議第18期看護学研究連絡委員会の樋口康子委員長の提案により、2001年9月に23学会で組織されました。目的は、看護学の学術的発展をめざす看護系諸学会の相互交流と連携をはかり、看護学研究の成果を社会に還元する学会活動を支援し、また看護学学術団体の立場から、人々の健康と生活の質の向上のため国・社会に向かって必要な提言を行うことです。現在、会長は太田喜久子氏（慶應義塾大学・学術会議連携会員）、会員数は本学会を含めて33学会で、日本学術会議看護学研究連絡委員会との相互協力によって、看護学の発展にむけての具体的活動を順調にすすめています。具体的な活動として、総会の開催、会員相互の情報交換、日本学術会議および国内外の学術組織との交流・相互協力、社会に貢献できる看護学の学会活動の支援、国や社会に向けての必要な提言、その他協議会の目的を達成するために必要な事業が挙げられています。

平成19年度総会は、平成19年6月16日（土）13時から聖路加看護大学2号館3階の交流ラウンジで開催され、総会終了後に南裕子学術会議会員を講師に、学術会議に関する講演会もありました。総会では、昨年度の事業および会計報告、平成19年度の事業計画および予算案について審議され、日本学術会議協力団体へ連合体として登録することになりました。精神保健看護学に関するわが国唯一の学術団体として、本学会が貢献できることはたくさんある

と思います。これからは会員の皆様のご協力をいただくことも多々ございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ちなみに協議会の年会費は80,000円です。会員の皆様には、規約や役員、既刊ニュースレター、最新情報について、協議会のホームページ（<http://plaza.umin.ac.jp/~jsns/index.html>、本学会ホームページからもアクセス可）に掲載されています。今年2月に東京国際フォーラムで開催された第7回シンポジウム「在宅療養を支援する看護の方略」には91名が参加しましたが、当日使用したパワーポイントと内容もホームページに掲載される予定です。なお、第8回シンポジウムは、東京国際フォーラムにおいて平成19年12月7日（金）18時から20時まで、ITによる情報交換に関する看護倫理上および法的な問題について検討する内容で開催が予定されています。シンポジウムの参加費は無料で、詳細が決まり次第ホームページに掲載される予定ですので、興味のある本学会会員の皆様ぜひご参加ください。

なお、日本学術会議とは何か、看護学はどのような貢献をしているかについては、日本学術会議のホームページ（<http://www.scj.go.jp/>）も併せて是非一度ご覧ください。保健医療福祉に関するさまざまな研究報告書のダウンロード、シンポジウムなどの情報が満載されています。「偉い人たちの雲の上の会議」と考えていた私にとって、協議会の担当になったことで学術団体とは何か、学問としての貢献とは何か等を考えるよい機会になっています。わからないこともたくさんありますが、協議会の会員としての本学会のこれからを考えてみたいと思います。

2007 世界精神保健連盟 (WFMH)

世界精神保健会議 (World Mental Health Congress)

に参加して

東京女子医科大学看護学部 小山 達也

WFMHの世界精神保健会議が、2007年8月19日～23日に香港で開催されました。WFMH (World Federation for Mental Health: 世界精神保健連盟) は、メンタルヘルスの重要性の認識を高めること、精神障害の予防や精神に障害がある方の治療や回復の改善を目標に活動している世界的な組織です。今回の大会には、専門職のほか、当事者やご家族、精神保健福祉ボランティアなど、世界60カ国から900名が参加し、立場を越えて活発な討議が行われました。

大会のテーマは、「メンタルヘルスへの文化の影響—東洋と西洋の出会い (Impact of Culture on Mental Health: East Meets West)」であり、東洋と西洋の文化的な背景を軸とした、多くのメンタルヘルスについての講演などが企画されていました。常日頃日本で生活をしている私にとっては、東洋と西洋の違いについて考えることは少ないのですが、学会に参加している多様な国籍を持つ人々と接していると、文化的な背景について考えることは、日常生活を送るだけでなく、治療や看護を行う上で、またその人自身を知るためにとても重要なことであることを肌で感じました。

学会の中で印象深い内容の一つにコンシューマー・ワークショップがありました。香港、日本、オーストラリアの

当事者の方が発表をされましたが、当事者の組織が政府から支援を受け、医療提供者と当事者の良好な関係作りや自殺予防などのプログラムを行っているということでした。日本でも様々な形での当事者活動がありますが、世界の取り組みはさらに当事者の視点を大切にしているということを知りました。臨床で看護師をしていたときには、「患者さん」という視点が中心で、教育の現場に来て「当事者」という視点を知った私にとっては、当事者の方の精神医療への新しい関わり方を知る機会となりました。

私にとって初めての国際学会参加でしたが、世界のメンタルヘルスについての取り組みを知ることや参加者との交流の経験はとても刺激的な経験となりました。この経験を日々の臨床実践、教育、研究活動に役立てていきたいと思っています。



WFMH入会方法：

WFMH日本支部の事務局：〒783-8505高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部神経精神科学教室
FAX 088-880-2360

「WFMH入会申し込み」として、・新規・継続の別、・年間会員か永久会員かの別（年間会員は35ドル：約3,850円、永久会員は500ドル：約55,000円）・氏名（ふりがな）、・住所（ふりがな）・電話、・所属機関名、・所属機関住所、・所属機関電話、以上を書いて、上記のFAX番号に送ると入会手続きを代わりにして下さるそうです。

WFMHのwebサイトwww.wfmh.orgから直接入会することも可能。

＜教育活動委員会＞－平成19年度ワークショップ開催のお知らせ－

『うつ病患者への認知へのアプローチ

－認知療法を学び看護に活かそう！－

うつ病が急増する今日、看護職にもうつ病患者ケアの変革が期待されています。今回テーマとした認知療法は、すでに欧米でその効果が検証され、精神看護領域でも看護ケアの方法として普及しつつあります。認知療法のアプローチは、うつ病患者の陥りがちな認知の歪みと思考の悪循環に患者自身が気づき、さらに考えの視点を変えたり幅を広げることによって、症状緩和とスムーズな日常生活を図るものです。

本ワークショップでは、まず認知療法の理論と方法、および看護師による集団認知療法の実践を紹介し、さらには参加者の皆さまに具体的なアプローチをご体験いただく予定です。毎日の看護活動のヒントとなる企画ですので、是非ふるってお越しください。詳細につきましては、本学会のHPにも掲載いたしております。

開催日時：平成20年1月12日（土）13:00～16:00

開催場所：淑徳大学看護学部 千葉市中央区仁戸名町673

プログラム：13:00～14:00 講演「うつ病の認知療法」

講師 慶應義塾大学保健管理センター 大野裕氏

14:10～16:00 講演「うつ病の看護に活かす認知療法

－女性うつ病患者への集団認知療法の実践から－

講師 淑徳大学看護学部 岡田佳詠氏

参加費：会員2000円、非会員3000円

申し込み期限・方法：平成20年12月20日（木）までに

- ①氏名、②所属施設名、③職位・職名、④実務経験（精神科〇年、教育〇年）、
⑤会員・非会員の別、⑦連絡先（メールアドレスまたは電話・FAX番号）
を記入の上、下記のどちらかの方法でお申し込みください。

1) メール 淑徳大学看護学部 岡田佳詠 yoshie-o@soc.shukutoku.ac.jp

2) FAX 淑徳大学看護学部 諸 弘美 Fax. 043-305-1816

ワークショップ事務局：千葉市中央区仁戸名町673 淑徳大学看護学部 岡田佳詠

第18回

日本精神保健看護学会総会・学術集会のご案内

以下の要領で、第18回日本精神保健看護学会総会・学術集会を開催致します。企画委員会では現在、多くの皆様に参加していただけるような企画を検討しております。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

メインテーマ：「精神保健看護における倫理」（仮）
 大会長：田中 美恵子（東京女子医科大学看護学部）
 開催日：2008年6月21日（土）・22日（日）
 会場：東京女子医科大学（東京都新宿区）

学術集会についてのお問い合わせ先：

Email：gakkai@japmhn.jp

FAX：03-3341-8832（担当・小山宛「日本精神保健看護学会学術集会問い合わせ」とお書きください。）

*なお、ホームページには10月中旬に掲載予定です。今しばらくお待ちください。

*次号ニュースレターにて、参加登録・演題登録等の詳しいご案内を致します。

学術集会ワークショップを募集します！

第18回大会では、会員の皆様から幅広くワークショップの企画を募集いたします。奮ってお申し込みくださいますようお願いいたします。

ワークショップの企画に応募される方は、下記の要領でお申し込みください。

＜ワークショップ企画応募の要領＞

記載事項：ワークショップ・テーマ、参加予定人数、ワークショップ主催代表者氏名・所属・電話・FAX番号、連絡先e-mailアドレス、ワークショップ企画者人数、教室の希望（固定椅子でも可かどうかなど）、使用機材（コンピュータ・パワーポイント等）の予定

*なお、ワークショップ企画者は原則として会員とします。

申し込み期間：2007年12月14日（金）まで

申し込み・問い合わせ先：

Email：gakkai@japmhn.jp

FAX：03-3341-8832

（担当・小山宛：「日本精神保健看護学会ワークショップ申し込み」とお書きください。）

注）申し込みが多数の場合には、調整をさせていただくこともありますので、予めご了承ください。後日、企画の採用の結果についてお知らせいたします。

精神保健従事者団体 懇談会ニュース

佐久間 えりか

最近の精神保健従事者団体懇談会（略称 精従懇）の動きをお知らせします。

本題に入る前にお詫びと訂正をさせていただきます。第48号のニュースレターで第21番目の団体として日本看護協会が参加するとお伝えしましたが、参加について問い合わせがあったということで、その後、参加はされないことになりました。不正確な情報をお伝えして申し訳ありませんでした。お詫びして訂正させていただきます。

さて、精従懇の動きです。今年の3月に緊急シンポジウム「精神障害者の地域移行をめぐって、街で暮らすとは」を開催しました。参加者は80名を数えました。DPI日本会議の尾上氏、帯広ケアセンターの門屋氏、大阪府の鹿野氏による提言がありました。いずれも障害者の地域生活への移行について着実な

実践を踏まえた興味深いものでした。シンポジウムの内容は、現在資料化しております。配布の方法など詳しいことは後日お知らせいたします。

もうひとつ。精従懇では、DPI日本会議からの検討依頼を受けて「退院支援施設」の建設に反対する都道府県知事宛の要望書について検討を進めています。「退院支援施設」については、昨年5月の全国障害福祉計画担当者会議で突然「精神科病棟の転換による退院支援施設」として示されて以降、多くの当事者や関連団体により反対が叫ばれてきました。昨年8月には障害福祉計画に盛り込まれましたが、反対意見が多かったため、厚労省は10月に予定されていた運用開始を今年の4月まで延期した経緯があります。精従懇でも、昨年9月に「退院支援施設」に反対する意見書を厚労省に提出しています。今回のDPI日本会議の要望書は、都道府県知事など認可する立場の地方公共団体宛に慎重な検討を求めるところと、支援団体・専門職団体と連名というところがポイントだと思います。次回のニュースレターで検討の経緯など、詳細にお伝えしたいと思います。

また、今後の予定として、障害のある人の権利に関する条約についての学習会が企画される予定です。これらの内容も機会をとらえてお知らせしたいと思います。



理事会便り

— 役員選出制度の改定の検討について —

現在、日本精神保健看護学会理事会では役員選出制度の改定の検討を行っております。学会設立からこれまでは、学会基盤がまだ十分確立されていないという理由から、役員選出規約に基づき、理事会より委嘱された3名の役員推薦委員が役員推薦委員会を組織し、12名の役員候補を推薦し、会員からの信任投票を経て総会で承認を得るという形で役員が決

定されてきました。

しかしながら、本学会も設立から16年を経過し、会員数も700名を超え、一定の安定した基盤もできたと考えられることから、地区別選挙による評議員制度を導入し、各地区から選出された評議員の中から選挙で役員（理事・監事）を選出するという、多くの学会で取り入れられている方法を導入する時期

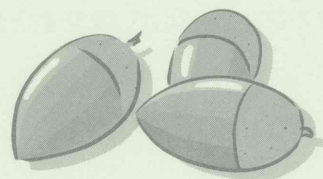
に来たのではないかと考えられます。そこで現在理事会では、役員選出制度の改定の検討を行っております。この制度の導入により、全国の会員の皆様のご意見をより一層反映できるような組織作りが行え、会員数の拡大にも有効であり、さらに学会活動を活発化することが可能と考えます。しかし、役員選出制度の見直しに際しては、学会会則の改定も同時に必要であり、大きな改革となることから、理事会では会員の皆様に情報をお渡ししながら、慎重に検討を進めてまいりたいと考えております。

最終的には、役員選出制度の改定とこれに伴う会則の改正案については、第18回日本精神保健看護学会総会においてお諮りする予定です。今後、総会

前のニューズレター、ならびに学会ホームページにおきまして、会則改正案を会員の皆様にお示しする予定です。

会員の皆様におかれましては、学会からの情報に目をお配りいただくとともに、忌憚のないご意見をいただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

(理事長 田中 美恵子)



第64回日本循環器心身医学会のご案内

近年、心臓病の患者さんの不安やうつが病気の発症や生命予後に大きく影響することが明らかにされつつあります。日本循環器心身医学会は、心臓病の患者と家族の方々の心のケアを医師、看護師、臨床心理士、音楽療法士、アロマセラピスト、栄養士、薬剤師、作業療法士、医学情報担当者等とチームで考え実践していくことを目的としております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

テーマ：『こころのアートーみんなで拓くー』

学会HP：<http://www.congre.co.jp/psmc07/index.html>

主催者：学会長 笠貫宏（東京女子医科大学循環器内科教授）

日時：2007年10月27日（土）～28日（日）

場所：日本教育会館

参加方法：未定

連絡先：運営事務局

〒102-8481

千代田区麹町5-1 弘済会館ビル6階

TEL：03-5216-5318 FAX：03-5216-5552

E-mail：psmc07@comgre.co.jp

担当：星野

お詫びと訂正

ニュースレター49号で掲載された学会誌投稿規定に誤りがございました。お詫びいたしますとともに、投稿規定の新旧表を同封しておりますので、ご確認ください。

※正しい投稿規定は、以下に掲載されておりますのでご覧ください。

○日本精神保健看護学会誌第16巻第1号

○日本精神保健看護学会ホームページ <http://www.japmhn.jp/doc/toukoukitei.pdf>



住所・所属変更手続きのお願い

住所・所属の変更後にお手続きがないため、学会誌およびニュースレターをお届けできない方が増えております。ご変更が生じた場合には、ご連絡を必ずお願い致します。また、お心あたりのある方がいらっしゃいましたら、下記連絡先までご一報くださいますようお願い致します。

連絡先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19
(株)国際文献印刷社内
TEL 03-5389-6254 FAX 03-3368-2822
mail: japmhn-post@bunken.co.jp

学会誌販売のご案内

これまでに発刊されました学会誌につきましては、学会事務局（下記連絡先）と学術集会会場にて販売しております。書店での取り扱いはございませんので、ご入会以前のバックナンバーのご購入希望の方、非会員の方および教育機関や病院でのご購入にご関心のある方がいらっしゃいましたら、ご紹介くださいますよう宜しくお願い致します。

価格 4～11巻：3,000円（1・2・3・10）は在庫なし

12巻以降：4,000円（いずれも税込み価格、郵送料は実費で購入者負担）

問合せ先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19
(株)国際文献印刷社内
TEL 03-5389-6254 FAX 03-3368-2822
mail: japmhn-post@bunken.co.jp

ニュースレター原稿募集

学会では、学会員が主催している精神看護に関連する活動を支援し、また学会員同士がより広く交流できるよう、ニュースレターへ掲載する原稿を学会員の方々から募集したいと思います。

学会員が主催している精神看護に関連した活動で、ニュースレターで広報してほしい活動について、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・時期、参加方法、連絡先についてお知らせください。また現在の精神医療や看護に関するご意見や、今、直面している現場の問題、あるいは日頃から気になっていることなど、学会員の方々と共に共有したい内容についての記事をお送りください。編集委員会で検討させて頂いて、ニュースレターに掲載したいと考えております。お原稿お待ち致しております。

お問い合わせ先 日本精神保健看護学会編集委員会（荻野）
メールアドレス mogino@iuhw.ac.jp
TEL 0465-21-6649

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
letter*

編集後記

▼前回ニュースレターでお知らせをしました学会誌投稿規定に誤りがございました。お詫びの文章と共に新旧表を同封いたしておりますので、どうぞご確認ください。今後このようなことがないように、ニュースレターの校正を増やし対処しております。大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。▼今回のニュースレターは、前回の学会の記事に加え、日本看護系学会協議会や世界精神保健会議の記事など盛りだくさんの内容でお届けしております。精神保健や精神看護学に関する活動が活発になってきております。このような情報を会員の皆様へ発信していくことも学会活動の重要な活動の一つです。▼会員の皆様からも、皆様の活動の報告やお知らせをお待ちしております。

編集委員 萱間真美 大熊恵子 瀬戸屋希 宮本有希 荻野雅